

前号から引き続いて「等位接続詞」(conjunción coordinada)を扱います。「連結の接続詞」(conjunción copulativa)である“y”と並んで基本的なものに「選択の接続詞」(conjunción disyuntiva)の“o”があります(「離接」や「分離」の接続詞と呼ばれることも多い)。用法として「選択」、「言い換え・説明」、「条件」の3つに大別できます。さっそく例文から見ていきましょう。

Marta **o** Pedro te ayudarán.

マルタかペドロが君を助けてくれるだろう。

この文は実は少し曖昧です。というのは、マルタとペドロの2人ともが助けてくれるのか、どちらか1人が助けてくれるのか、両方を意味するからです。前者を「両立的選択」、後者を「排他的選択」と言います。つまり、以下のように2つの可能性があります。

Marta **o** Pedro, ambos, te ayudarán.

マルタかペドロ、あるいは両者が君を助けてくれるだろう。 両立的選択

Marta **o** Pedro, uno de los dos, te ayudará.

マルタかペドロのいずれかが君を助けてくれるだろう。 排他的選択

この場合ayudaráと単数になります。排他的選択をより明確にするために“o”を前でも繰り返す形式“o... o...”を使用することができます。

O Marta **o** Pedro te ayudará.

マルタかペドロのいずれかが君を助けてくれるだろう。

もう1つ別の例文を見てみましょう。

¿Hablas inglés **o** español?

君は英語かスペイン語を話すの?

単純な文ですが、「両立的選択」と「排他的選択」の両方の意味になりえます。両立的ならば、「君は外国語を話すの?例えば英語とかスペイン語のような?」という意味で、排他的ならば「君は英語かスペイン語か、どちらを話すの?」という意味になります。どちらの意味で使われているかは通常、文脈から判別できるでしょうが、話者のイントネーションも少し違って来るようです。後者だとinglésではっきりと語尾上げにし、españolで下げるそうです。

2つ目の用法は「言い換え・説明」です。例文から見ていきましょう。

El español **o** castellano se habla también en la mayor parte de Latinoamérica.

スペイン語、すなわちカスティール語はラテンアメリカの大部分でも話される。

この用法の場合は後ろの名詞に冠詞が付かないことが特徴的です。

以下、接続詞“o”にとらわれずに「言い換え・説明」を表す表現を挙げます。会話的で最もよく使われる“o sea”と“es decir”の例を見てみましょう。

En Valencia llueve poco y hace bueno todo el año, **o sea** tiene un clima típicamente mediterráneo.

バレンシアは1年中雨が少なくよい気候だ。つまり、典型的な地中海性気候である。

Soy hipertenso, **es decir**, tengo la tensión alta. Así que trato de no comer comidas con mucha sal.

私は高血圧、つまり血圧が高いのだ。だから塩分の多い食べ物は食べないように努めている。

文語的な表現として“esto es”や“a saber”があります。論文など“i. e.”という略語が使われることがありますが、これはラテン語の“id est”(イッド・エスト)の略語です。そのスペイン語版が“esto es”というわけです。

「言い換え」と言うよりむしろ「修正」を表す語句として“(o) mejor dicho”「~と言うよりむしろ…」があります。

En las elecciones generales de esta semana el partido gubernamental ha ganado; **o mejor dicho**, el partido de la oposición ha perdido.

今週の総選挙では与党が勝った、いや、と言うより野党が負けたのだ。

驚きや怒りを表す会話的な表現で“..., o qué?”というものがあります。

¿Me estás tomando el pelo, **o qué?**

俺をからかっているんだろう、えっ?

直訳すると「…それとも何?!」となりますが、“..., ¿verdad?”とか“..., ¿no?”と似ていますが、よりくだけた会話的な表現です。同じことを丁寧な言い方をすると、例えば、

Usted está bromeando, **¿verdad?**

ご冗談でしょう?

となるでしょう。

選択の接続詞“o”に近い表現として、「配分の接続詞」(Conjunción distributiva)があります。文法家によってはこれを別のカテゴリーとするのですが、我々は「選択の接続詞の一種とみなします。代表的なものとして“sea...sea...”や“bien...bien...”があります(他に“ya...ya...”や“ora...ora...”がありますが、文語的ですのであまり会話では使いません)。

Dame una caja, **sea** de cartón, **sea** de madera.

箱を1つくれ、段ボールでも木でも。

El encargado de nuestro servicio de paquetería, pasará a su domicilio para la recogida, **bien** por la mañana, **bien** por la tarde.

わが社の宅配便サービスの係員は午前でも午後でもあなたのお宅に集荷に伺います。

さて3つ目の用法は「条件」です。以下の例文を見てください。

Pagas la deuda **o** te mato.

借金を払うだろ。さもなくば殺すぞ。

Paga la deuda **o** te mato.

借金を払え。さもなくば殺すぞ。

前者のpagasは現在形で後者のpagaは命令形です。注意すべきは前半の肯定文ですが、意味的に否定を含むことです。つまり、条件の“Si...”を使って言い直すと、以下ようになります。

Si no pagas la deuda, te mato.

一見単純に見える等位接続詞の用法は意外に奥が深いことに気づかれたのではないのでしょうか。それでは今回はこれくらいで。¡Hasta la vista!



仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエス(ニューヨーク)』(共著、三修社)、『中級スペイン語一文法と演習』(共著、同学社)などがある。